

Table with multiple columns and rows, containing numerical data and text. The text is very faint and difficult to read, but appears to be a detailed data table or report.

第二表 其一

考 備	區 分 數		時 間	人 員	幅 員
	一	二			
一、	時間	渡河兵力	中隊 一、二、五	九、七六	七、五〇
二、	流下距離 $a = \frac{1}{2} L \times V \dots$	L ハ河幅、 V ハ流速一米ノ場合トス			五、六三
三、	三角形航路ノ長サハ $2(L+a)$ トス	L ハ乘船點ヨリ上陸點ニ至ル距離即チ三角形航路ノ一斜邊ニシテ $L(1+\frac{1}{2}V)$ ノ實數ニ依ル			
四、	所要時間中括弧内ハ死節時ヲ加算セサルモノトス				
五、	豫備ノ鐵舟ハ損害ナキ場合ニ於テハ中隊長ノ傳令船、救助船又ハ適時門橋トナスモノトス				
六、	漕航時間ハ普通ノ漕手二名ニテ四節舟ヲ平均一秒間ニ一米トシ又乘船一分三十秒、上陸一分トス				

漕渡ノ爲架橋縦列使用ニ關スル準備概數表

第二表 其一

漕渡ノ爲架橋縦列使用ニ關スル準備概數表		區分數	時間	人員	幅員
縱列ノ開進、材料卸下及交付	夜間	約三、〇〇			
開進地ヨリ材料ノ運搬及偽裝工事等	(距離ニヨリ變化ス) 約二、一三、〇〇	架橋材料運搬ノ爲ニハ工兵中隊ノ外歩兵一大隊ヲ以テ援助スルヲ要ス			
鐵舟置場ヨリ渡場ニ運搬泛水(靜肅行進)	約一、〇〇				
四節全形舟全部ヲ運搬スル所要人員	計一隻 二四—二八 工兵一中隊 七五六名 三中隊 約				
所要漕手	計長以下 一三五				
第一回一齊漕渡ノ爲四節舟二十七隻ヲ河岸ニ展開スル所要地幅	約五三〇米				

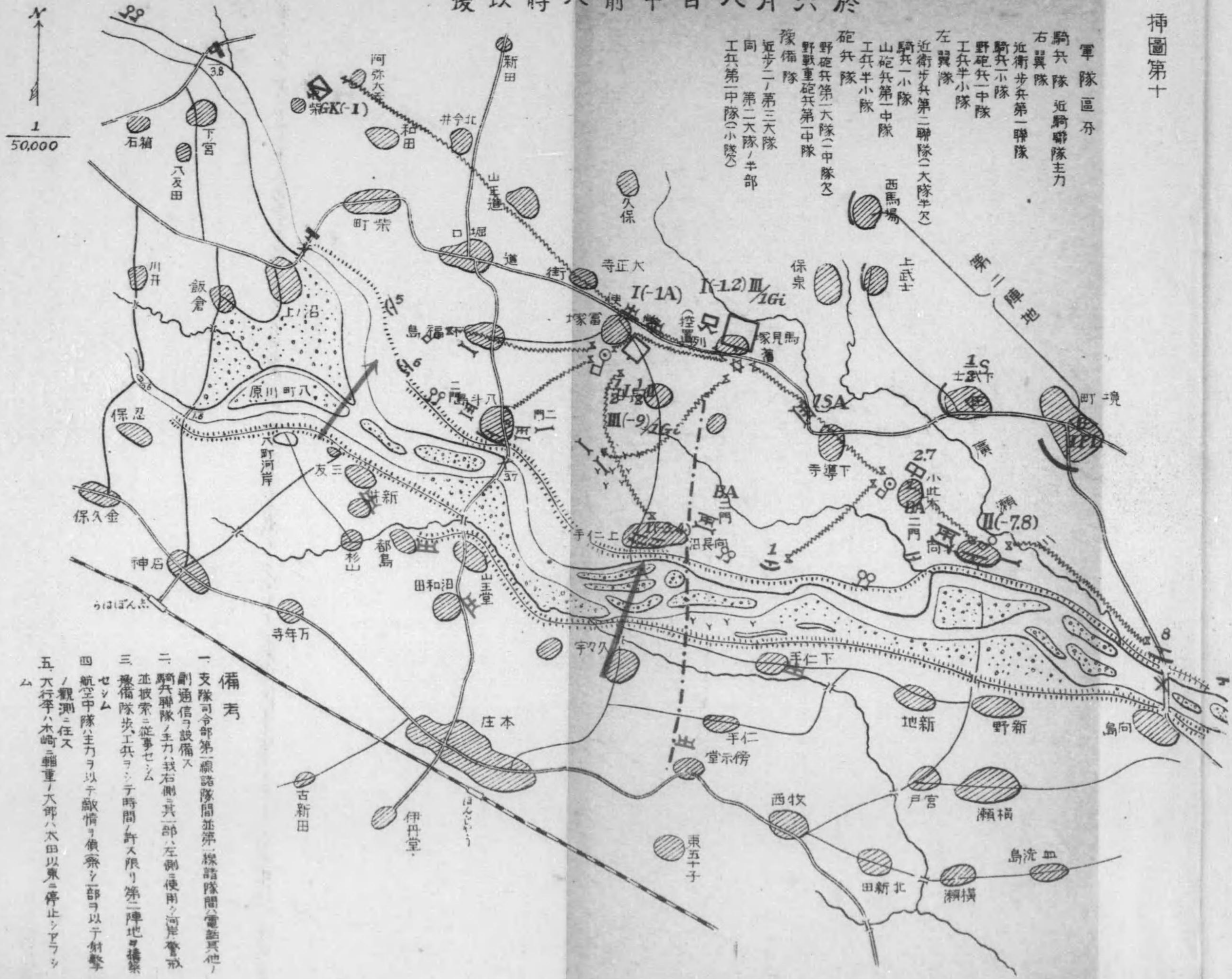
第二表 其二

漕渡(循環漕渡)ノ爲漕航距離及渡河能力一覽表		區分河幅	三角航路長	一渡場配當舟數	渡場數	漕航區域	所要漕手	一往復所要時間	每舟一時間往復回數	一時間渡河兵力
備考	一、流下距離 $a = \frac{1}{2}L \times V \dots L$ ハ河幅、 V ハ流速 1 米ノ場合トス 三角航路ノ長サハ $2(L+a)$ トス 二、所要時間中括弧内ハ死節時ヲ加算セサルモノトス 三、豫備ノ鐵舟ハ損害ナキ場合ニ於テハ中隊長ノ傳令船、救助船又ハ適時門橋トナスモノトス 四、漕航時間ハ普通ノ漕手二名ニテ四節舟ヲ平均一秒間ニ一米トシ又乗船一分三十秒、上陸一分トス	百米ノ場合	二四四米	四隻 (外ニ豫備三隻)	六	三〇〇米 (二區隊)	一二〇名	一〇分 (七分)	六	中隊 一、二五
		一百五十米ノ場合	三六六米	五隻 (豫備二隻)	五	三八〇米 (二區隊)	一二五名	一二分 (九分)	五	九、七六
		二百米ノ場合	四八八米	六隻 (豫備三隻)	四	四二〇米 (二區隊)	一二〇名	一五分 (十一分)	四	七、五〇
		三百米ノ場合	七三二米	八隻 (豫備三隻)	三	三六〇米	一二〇名	二〇分 (十五分)	三	五、六三

東軍支隊境町附近利根川左岸防禦配要圖

於六月八日午前八時以後

挿圖第十



軍隊區分
 騎兵隊 近衛騎隊主力
 右翼隊
 近衛歩兵第一聯隊
 騎兵一小隊
 野砲兵一中隊
 工兵一小隊
 左翼隊
 近衛歩兵第二聯隊二大隊半
 騎兵一小隊
 山砲兵第二中隊
 工兵半小隊
 砲兵隊
 野砲兵第一大隊(中隊)
 野砲兵第二大隊(中隊)
 野砲兵第三大隊(中隊)
 野砲兵第四大隊(中隊)
 野砲兵第五大隊(中隊)
 野砲兵第六大隊(中隊)
 野砲兵第七大隊(中隊)
 野砲兵第八大隊(中隊)
 野砲兵第九大隊(中隊)
 野砲兵第十大隊(中隊)
 野砲兵第十一大隊(中隊)
 野砲兵第十二大隊(中隊)
 野砲兵第十三大隊(中隊)
 野砲兵第十四大隊(中隊)
 野砲兵第十五大隊(中隊)
 野砲兵第十六大隊(中隊)
 野砲兵第十七大隊(中隊)
 野砲兵第十八大隊(中隊)
 野砲兵第十九大隊(中隊)
 野砲兵第二十大隊(中隊)

備考
 一 支隊司令部第一線諸隊間並第二線諸隊間電話其他副通信ヲ設備ス
 二 騎兵隊主力ハ我右側ニ其一部ハ左側ニ使用シ河岸警戒並偵察ニ從事セシム
 三 砲兵隊歩工兵ヲシテ時間ノ許ス限リ第一陣地ヲ據ルセシム
 四 航空中隊ハ主力ヲ以テ敵情ヲ偵察シ一部ヲ以テ射撃ノ觀測ニ任ス
 五 大行平ハ木崎ニ輜重ノ大部ハ太田以東ニ停止シアラシム

演習 七日

作戰六月九日

東軍 東軍支隊長ハ此日飛行機ノ報告ニ依リ敵ノ大ナル輻重縦列ハ午後二時—三時ニ互リ藤岡ニ進入セルコト及本庄附近ニ敵兵宿營シアルコトヲ知ルノ外情況大ナル變化ナシ

作戰六月十日

東軍 此日晝間別ニ變化ナキモ彼我ノ飛行機ハ朝來上空ヲ飛翔シ時々其衝突ヲ見ル此夜午後九時ニ至ルヤ敵ハ東軍支隊長ノ豫期セル如ク三友及久々宇附近ノ兩渡場ヨリ漕渡ニ依リ一齊ニ渡河ヲ開始シ三友附近ノモノハ應用舟ヲ久々宇附近ノモノハ鐵舟ヲ使用シ其舟數各二十隻ヲ下ラス
(問) 東軍砲兵隊長ハ如何ニスルヤ

演習 第七日

西軍

此日晝間架橋縦列ヲ藤岡ニ招致シ午後六時ヨリ更ニ運動ヲ起シ久々宇ニ招致シ渡河ノ爲諸準備ヲ爲ス

西軍

十日晝間情況大ナル變化ナク朝來飛行機ヲ以テ搜索飛行ヲ繼續ス
此日夕刻ヨリ豫定ノ渡河計畫ニ基キ諸隊ハ行動ヲ起シ午後七時三十分大要左ノ如ク配備ヲ終ル
新井、沼和田、久々宇ニ各歩兵一聯隊集合各砲兵隊ハ豫定ノ陣地ヲ占領ス

(答) 支隊長ニ意見ヲ具申シ控置セル砲兵二中

隊ヲ豫備陣地ニ進入セシメ八斗島東西兩側ノ砲兵及向長沼ノ砲兵中隊ヲ以テ三友及久々宇附近ノ敵ノ渡河部隊ニ對シ猛火ヲ集注ス

我第一線部隊砲兵ハ照明彈ノ照明ニ依リ敵ヲ猛射シテ渡河ヲ妨害ス之カ爲敵ノ渡舟二、三隻ハ破壊セラレ漕手又負傷シ多大ノ損害ヲ與ヘタルモノノ如ク渡河部隊ノ一部ハ逆航シ其各約一中隊ハ辛ウシテ我岸ニ到着ス此間優勢ナル敵ノ歩、砲兵ハ我第一線ニ對シ猛烈ナル射撃ヲ行ヒ其重砲ハ少クモ二中隊ヲ下ラス爾後敵ハ渡河ヲ續行シ午後十時頃迄ニ兩渡河點ヨリ渡河セシモノ各約二、三中隊ヲ算ス

此時支隊長ハ左ノ軍通報ニ接ス

東軍參謀長通報 (小山發)

- 一、軍ハ豫定ノ如ク利根川左岸ニ陣地ヲ占領セリ
- 二、太田附近ニハ其支隊ノ爲軍獨立工兵第一中隊ヲ差遣シ九日以來土民ヲ使役シ豫メ堅固ナル防禦陣地ヲ設備セシメツツアリ

一四二

午後九時ヨリ主力(歩兵第一、第二聯隊)ヲ以テ三友ヨリ應用舟ニ依リ歩兵第三聯隊ヲ以テ久々宇ヨリ鐵舟ニ依リ各漕渡ヲ以テ一齊ニ渡河ヲ開始スルヤ八斗島、上仁手附近利根川左岸ノ堤防ヲ占領セル敵ノ小銃、機關銃及歩砲兵並各種火砲ヨリ猛射ヲ受ケ我砲兵亦之カ制壓ニ努メ茲ニ彼我ノ銃砲戰最モ熾盛ヲ極ム而シテ我一齊渡河ハ頗ル困難ノ狀況ニ陥リ數隻ノ船ハ敵砲彈ノ爲破碎セラレ舟手ノ死傷相踵キ漕具破損シ兩渡場共ニ第一回渡河ニ於ケル各歩兵二中隊中漸ク一中隊ヲ對岸ニ上陸セシムルコトヲ得タリ

(問) 西軍砲兵聯隊長ハ如何ニ射撃目標ヲ配當シアリヤ

(答) 野戰重砲兵大隊ヲ以テ八斗島、向長沼附近ノ敵ノ野砲及推定セル敵ノ重砲ヲ、野砲ノ主力ヲ以テ河岸ノ敵ノ歩兵線ヲ制壓シ一部ノ野砲ヲ以テ敵ノ野砲ヲ射撃ス

敵ハ豫メ河岸ニ照明具ヲ準備シ我渡河部隊ヲ照シ光明煌々トシテ白晝ノ觀アリ

- 三、増援トシテ近衛歩兵第三聯隊、近衛野砲聯隊本部及第二大隊ヲ貴官ノ指揮下ニ屬セラル
- 該部隊ハ明十二日午前中ニ太田附近ニ到着スル筈

問 題

午前十時ニ於ケル東軍支隊長ノ決心

東軍支隊長ハ太田附近ニ向ヒ退却ノ準備ヲ爲ス此時以後右翼隊ハ敵ノ渡河部隊ニ對シ逆襲ニ轉シタルモ敵ヲ擊退スルニ至ラス爾後敵ハ渡河ヲ繼續シ午後十一時ニハ兩渡河點ヲ合シ少クモ歩兵一箇聯隊ノ渡河ヲ終ル同時支隊長ハ左ノ軍訓令ヲ受領ス

東軍訓令 (小山發)

- 一、太田附近ノ陣地設備ハ明十一日夕迄ニハ完了スル筈
- 二、貴官ハ情況已ムヲ得サレハ當面ノ敵ト決戦ヲ避ケ太田附近ニ後退シ増加隊ヲ合シ有利ニ作戦スヘシ

演習第七日

一四三

我先頭上陸部隊ハ敵ノ逆襲ヲ受ケシモ後岸及河原ヨリスル我掩護射撃ト相俟チ辛ウシテ敵岸ニ其位置ヲ死守ス

爾後萬難ヲ排シテ渡河ヲ續行シ午後十一時迄ニ兩渡場概ネ三、四中隊ヲ渡河セシムルコトヲ得タリ敵歩兵ハ我渡河部隊ニ對シ屢、逆襲ヲ反覆セシモ辛ウシテ之ヲ擊退ス

次テ敵ノ歩砲兵火漸次衰退シ其行動亦活潑ヲ缺キ或ハ敵兵退却ノ準備中ニアラサルヤノ徵アリ特ニ左翼隊前面ノ敵ノ抵抗著シク滅殺シ八斗島附近ノ敵ノ大部及砲兵ハ退却シタルカ如シ該方面ニ於テ既ニ渡河セシ大隊ハ八斗島ヲ占領シ山砲モ亦渡河ス茲ニ於テ大隊ハ更ニ下福島ヲ占領シ山砲中隊ヲ八斗島北端ニ招致シ爾來渡河作業著々進捗ス

午前零時迄ニ支隊長ハ左ノ情報ニ接ス

- 一、土人ノ言ニ依レハ新ナル敵ノ一部隊ハ三、四日前東方ヨリ太田町ニ到着シ土民ヲ使役シ該地附近ニ工事中ナリ
- 二、向長沼方面ノ敵モ亦漸次抵抗已ミ今ヤ此方面

問題

午前十一時ニ於ケル東軍支隊長ノ

決心 (口答)

茲ニ於テ支隊長ハ直チニ太田附近ニ退却スルニ決シ豫備隊及砲兵ノ一部ヲ以テ廣瀬川左岸ニ陣地ヲ占領シ敵ノ追撃ヲ阻止セシメ主力ハ二縦隊トナリ退却ス

問題 (三十分)

此狀況ニ基ク西軍支隊長ノ決心

(專習員全部)

西軍支隊長ハ先ツ一部ヲ以テ廣瀬川ノ線ニ敵ヲ追躡セシメ主力ハ利根川左岸ニ兵力ヲ集結シタル後敵ヲ追撃スルニ決ス

一四四

ノ敵ハ東北方ニ退却ヲ開始シタルモノノ如シ
三、斥候ノ報ニ依レハ敵ハ主力ヲ以テ舊例幣使街道ヲ又一部ハ境―尾島道ヲ太田方向ニ退却中ナリ

演習 第八日

作戰六月十一日

東軍

東軍支隊ハ六月十一日午前五時太田附近ニ兵力ヲ集結ヲ終ル此時迄ニ支隊長ハ左ノ事ヲ知ル敵ハ二縦隊トナリ舊例幣使街道及境―尾島道ヲ追撃前進シ午前八時頃ニハ西野谷、尾島ノ線ニ達シ得ルナラン

西軍

支隊主力ハ十一日午前五時迄ニ全部ノ渡河及兵力ヲ集結ヲ終ルヤ追撃前進ニ移ル其部署ノ大要左ノ如シ

騎兵聯隊ノ主力 舊例幣使街道方面ヨリ追撃
右縦隊

歩兵第三聯隊、騎兵一分隊 舊例幣使街道
(之ヲ含ム)以南ノ地區ヨリ追撃

左縦隊 前衛

歩兵第一聯隊(第三大隊欠)、野砲兵第一大隊、山砲兵中隊、工兵大隊ノ主力 舊例幣使街道
(之ヲ含ム)以北ノ地區ヨリ追撃

爾餘ノ主力 本隊トナリ左縦隊前衛ニ續行ス
追撃目標 岩松(尾島東方)―西野谷(木崎東方)ノ線

太田附近東軍支隊防禦陣地占領要圖

(專習員ノ全部)

問題 (三時間)

講評

- 一、陣地線ニ左ノ二案有リ
- 第一案太田西端、新井ノ線
- 第二案金山ヨリ東長岡、下小林ニ互ル線

演習 第八日

一四五

右兩案ハ何レモ採用スヘキ陣地ニシテ各利害アルモ支隊ノ任務ハ軍ノ右側ヲ掩護スルニ在ルト既設陣地ナルトニ考フル時ハ成ルヘク堅固ニ設備スルノ要アリ從テ第二案ヲ採用シ第一案ノ線ニ前進陣地ヲ設備スル時ハ地形上此要求ニ合スルモノトス

二、作業中前進陣地ヲ採用シアラサルモノアルモ本情況ニ於テ成ルヘク敵ノ攻撃ヲ遲滞セシムル必要上前進陣地ヲ設クルヲ可トス

三、敵ノ主攻撃方向ヲ我右翼又ハ中央ニ判斷シアルモノアルモ共ニ適當ナラス敵ハ地形上我左翼ニ主攻撃ヲ向クル如ク判斷スルヲ至當トス

四、防禦配備ニ於テ側防ノ顧慮十分ナラサルモノアリ

午前五時太田附近東軍陣地ノ設備完了セルヲ以テ支隊長ハ直チニ豫定ノ配置ニ就カシム

其部署ノ大要左ノ如シ(挿圖第十二參照)
一、大島、太田西端、新井、上廓、飯塚ノ線ニ前進陣地ヲ占領ス

十一日午前八時兩縱隊ノ先頭岩松、西野谷ノ線ニ達ス時ニ細谷、由良、脇屋ノ線ニハ敵ノ監視兵アルヲ知り之ヲ驅逐シテ前進ヲ繼續ス
午前九時三十分支隊長ハ敵ハ飯塚附近ヨリ上廓、新井、太田西端ヲ經テ大嶋ニ互ル線ニ陣地ヲ占領シアルヲ知ル

(問) 西軍支隊長ノ決心

(答) 支隊長ハ一部ヲ以テ藤阿久、下濱田ノ線ヲ占領シ主力ヲ由良附近ニ開進シ敵情地形ヲ偵察セントス

午前十一時支隊長ハ所望ノ如ク各一隊ヲ以テ下濱田及藤阿久ヲ占領シ主力ノ開進ヲ終ル時ニ支隊長ハ飛行機ヨリ左ノ報告ニ接ス

一、太田西端及飯塚附近ノ線ハ敵ノ前進陣地ナルモノノ如ク其本陣地ハ金山ヨリ東長岡ヲ經テ下小林ニ互リ堅固ニ設備セラレアリ

二、其砲兵陣地ノ位置ハ詳ナラス

支隊長ハ午後一時敵ノ前進陣地ヲ奪取シ午後二時第一線ヲ以テ太田北方大光院西側高地ヨリ太田東

二、脇屋、別所、由良、細谷ノ線ニ監視部隊ヲ配置ス

三、本陣地ハ歩兵一大隊ヲ以テ金山ヨリ大谷津西北側高地ヲ經テ熊野北側高地ニ互ル間ヲ、歩兵一大隊半ヲ以テ東長岡ヲ、歩兵二大隊ヲ以テ下小林ヲ守備シ別ニ歩兵一中隊ヲ以テ強戸ヲ守備ス

歩兵一大隊ト一中隊ヲ以テ豫備トシ茂木附近ニ位置ス

野砲兵ハ二中隊ヲ寺ヶ入附近ニ一中隊ヲ下小林西北側ニ山砲中隊ヲ以テ熊野北側高地ニ重砲兵ヲ以テ燒山東側乾田ニ陣地ヲ占領ス

午後一時頃前進陣地ハ敵ノ攻撃ヲ受ケ奪取セララル敵ハ攻撃前進ヲ繼續シ歩砲戰漸次激烈トナリ午後二時頃敵ハ其第一線ヲ以テ大光院附近ヨリ太田東端ヲ經テ内ヶ島ニ互ル線ニ進出シ爾後敵ハ該線ニ停止シ夜ニ入ル

端小舞木ヲ經テ内ヶ島ニ互ル線ヲ占領シ主力ヲ飯塚附近ニ集結シ敵情、地形ヲ偵察ス
午後四時迄ニ支隊長ハ敵ノ陣地ハ金山ヨリ大谷津北側高地、熊野北側高地、東長岡ヲ經テ下小林ニ互ル間ニ設備セラレ比較的強斷面ニシテ陣地前ニハ深サ約十米ノ鐵條網ヲ有シ且ツ龍舞、内ヶ島間ノ水流ニハ敵兵堤塘ヲ築キ汎濫ヲ設備シアル事ヲ知リ明拂曉敵陣地ヲ攻撃スルニ決シ之カ準備ニ著手ス

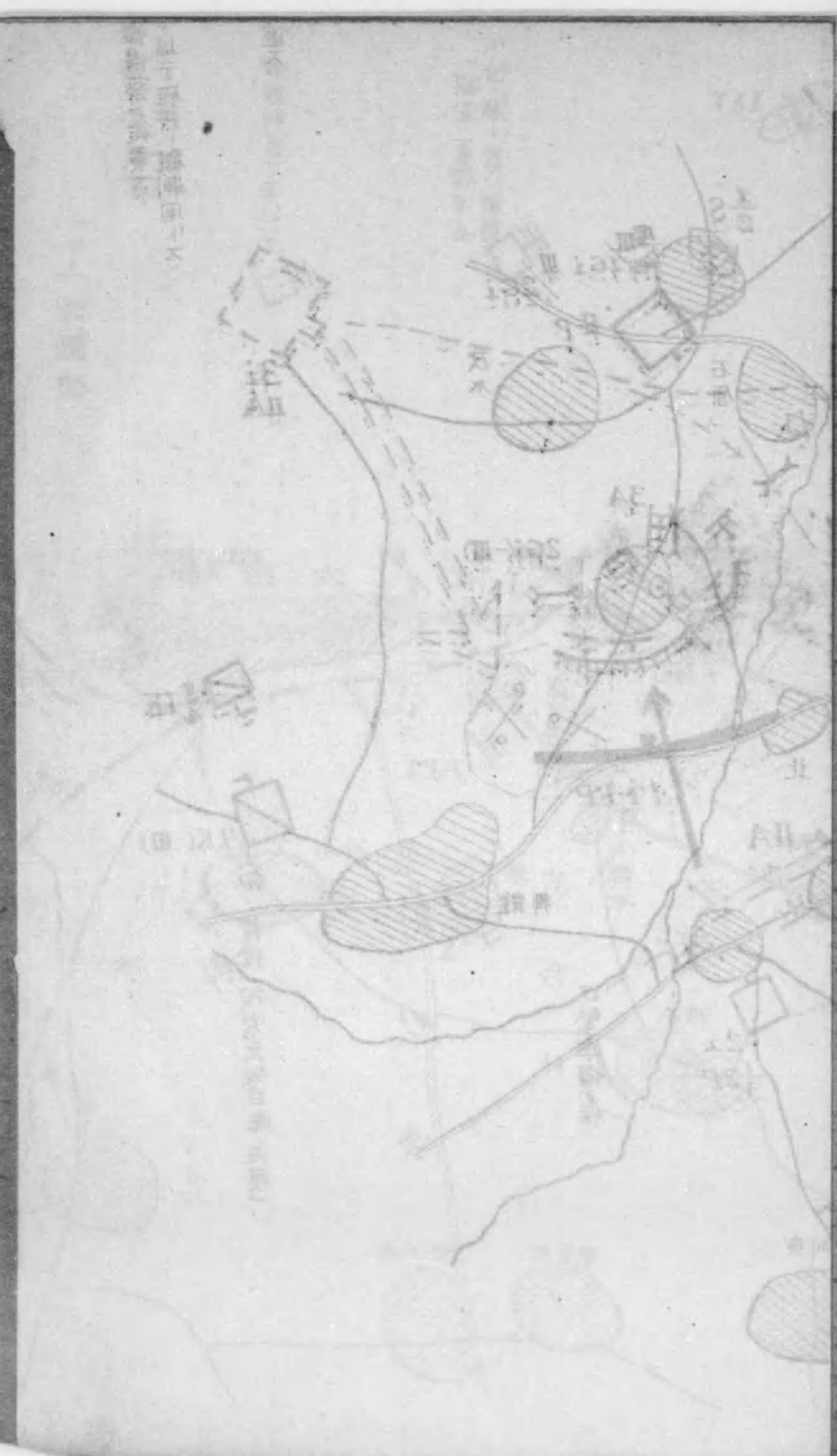
問題 (三時間)

太田附近西軍支隊攻撃配備要圖

(專習員全部)

講評

一、主攻撃ヲ東長岡ニ向クル案アルモ同意スル能ハス何トナレハ該方向ニ對スル攻撃ハ敵陣地ノ正面ニ向フノ不利アルノミナラス金山附近高地ノ敵手ニアル間ハ奏效困難ナレハナリ



太田附近東西兩軍支隊攻防配備挿圖第十二ノ如シ

主攻撃ハ下小林ニ向クルヲ可トス之レ敵陣地ノ最モ薄弱ナル部分ニシテ且ツ包圍ノ效果ヲ發揚シ得ヘケレハナリ

二、演習員ノ大部カ十二日拂曉ヨリ攻撃スルハ同意ス

三、敵陣地右翼ノ據點タル金山ノ高地ヲ奪取スル爲一部ヲ以テ夜襲スルノ考案ヲナセルモノアルハ適當ナリ

四、金山高地ニ對シ大ナル顧慮ヲ拂ハサルモノアルモ適當ナラス

抑モ金山附近ハ山地ニシテ攻撃困難ナルヲ以テ少數ノ兵力ヲ以テ之ヲ陽撃シ平地ニ用ユル兵力ヲ多クセントノ考案ナルヘシ然レトモ同高地又ハ熊野ノ高地ヲ奪取セハ敵陣地ハ甚タシク痛痒ヲ感スヘキヲ以テ十二日拂曉迄ニ先ツ之ヲ奪取スル如ク努力スルノ要アリ

作戰六月十二日

東軍

午前一時頃熊野附近ノ高地及金山ハ共ニ敵ノ夜襲ヲ受ケ守備隊ハ極力防戦セシモ熊野西側高地ハ遂ニ敵ノ爲奪取セラレ他ハ悉ク之ヲ撃退セリ

午前三時過支隊長ハ増加隊長ヨリ左ノ通報ニ接ス
 増加隊ハ太田―館林道ヲ前進シ午前八時頃ニハ石打ニ達スル豫定ナリ

午前四時敵砲兵ハ一齊ニ射撃ヲ開始スルト同時ニ敵歩兵ハ前進ヲ起シ我砲兵ハ一部ヲ以テ之ニ應射ス

拂曉迄ニ敵ノ歩工兵ハ我設備シタル堤塘ノ破壊ヲ企圖シ來リシモ守備隊ノ妨害ノ爲目的ヲ達セス敵砲兵ハ我砲兵陣地ヲ推定シ射撃ス

(問) 東軍支隊ノ砲兵ハ如何ニ敵ヲ射撃スルヤ
 (答) 我重砲ヲ以テ目撃シ得ル小舞木附近ノ敵野砲ヲ、寺ヶ入及下小林附近ノ野砲ヲ以テ主トシテ敵ノ歩兵線ヲ射撃シ且ツ一部ヲ以テ敵重

演習第八日

西軍

西軍支隊ハ歩兵一大隊ヲ以テ午前一時以後金山及熊野高地ニ夜襲ヲ敢行シ地形ノ險峻ト敵ノ抵抗ニ遭ヒ苦戰奮闘拂曉迄ニ辛ウシテ熊野西側高地ヲ奪取スルコトヲ得タリ

六月十二日午前四時迄ニ西軍支隊ハ概ネ攻撃ノ準備ヲ完了ス

其部署ノ概要左ノ如シ (挿圖第十二参照)

歩兵一聯隊、工兵一中隊ヲ右翼隊トシ内ヶ島ヨリ小舞木東側ニ互ル間ニ歩兵二大隊、工兵二小隊ヲ中央隊トシ小舞木ヨリ太田東端ニ至ル間ニ歩兵一大隊ヲ左翼隊トシテ金山中腹ニ攻撃準備位置ヲ占領ス

野砲ハ内ヶ島附近及小舞木附近ニ重砲ハ内ヶ島及小舞木ノ西側ニ山砲ハ高山神社北側ニ陣地ヲ占領ス

午前四時支隊長ハ砲兵ノ射撃開始及歩兵ノ攻撃前

砲ニ對戰ス

我砲兵ハ優勢ナル敵砲兵ノ射撃ヲ受ケ死傷漸次續出シ依然敵ト對戰セハ今ヨリ約二、三十分ノ後ニハ沈黙セララルノ已ムナキ狀況ニ在リ同時ニ敵歩兵ハ一進一止攻撃前進ヲ繼續シ來ル

支隊長ハ歩兵一中隊ヲ襲舞ニ派遣シ該地ヲ守備セシム該方面内ノ島以東ニハ敵歩兵少クモ二大隊アリ

我野山砲兵ハ其全部ヲ以テ敵ノ歩兵線ヲ射撃シ重砲兵中隊ヲ以テ敵砲兵ヲ射撃ス

之カ爲敵歩兵ハ一時停止シ中央方面ニ於テハ彼我第一線ハ概ネ七八百米ノ間ニ相對ス

支隊長ハ豫備隊ニ在リシ機關銃中隊ヲ下小林ニ増加シ午前五時頃ニ於テハ彼我ノ小銃、機關銃及歩兵砲ハ其火力ヲ最高度ニ發揚シ火戰熾烈ヲ極ム暫クスルヤ敵ノ砲兵ハ東長岡及下小林附近ノ我鐵條網ニ對シ破壊射撃ヲ開始ス

右翼隊長ハ金山頂上ニ在リテ敵ノ後方部隊漸次内ノ島ヨリ東方ニ移動中ナルコトヲ目撃シ支隊長ニ

進ヲ命ス

敵砲兵ハ直チニ射撃ヲ開始シ我歩兵ニ向ヒ殊ニ寺ヶ入附近ノ敵砲兵ハ新島附近ノ我歩兵線ヲ側射シ其重砲ハ我砲兵ヲ射撃ス

我歩兵線ハ概シテ龍舞南方水流ヨリ内ノ島北端、北、ヲ經テ新島北端ニ互ル線ニ前進スルヤ敵歩兵モ亦射撃ヲ開始ス時ニ午前四時三十分頃ナリ

午前五時ニ至ルヤ戰鬪酣ニシテ彼我ノ銃砲戰頗ル猛烈ヲ極ム

午前五時過支隊長ハ左ノ情報ニ接ス

歩兵約三大隊、砲十數門ヲ有スル敵ハ館林方向ヨリ前進中ニシテ午前八時頃ニハ石打ニ達スル距離ニ在リ

(問) 西軍支隊長ノ決心

(答) 攻撃續行、豫備隊ヲ龍舞方向ニ移動ス

我第一線逐次敵線ニ近迫スルヤ砲兵ハ其主力ヲ以テ敵陣地前鐵條網ノ破壊ニ努ム

右翼隊長ハ内ノ島東側水流ヲ越エ午前五時稍、過龍舞西側水流ノ線ニ達シ豫備隊ハ右翼隊ノ右翼後ニ報

報告ス依テ支隊長ハ其豫備隊ヲ新堀ニ移ス

左翼方面ニ在リテハ敵ノ歩兵ハ午前五時過龍舞西側ノ水流ヲ越エテ前進シ我龍舞守備中隊ハ廣正面ニ散開シ敵ノ前進ヲ拒支スルモ敵ハ勇敢ニ前進シ來ル中央正面ニ於テハ敵ノ歩兵ニ對シ寺ヶ入附近ノ砲兵ヲ以テ極烈ナル側射ヲ施行セシ爲敵ノ攻撃頓挫セシモノノ如ク午前六時以後敵ハ現在地附近ニ停止シ諸所工事ヲ開始ス

右翼金山高地方面モ亦彼我近ク相對シテ戰鬪交綏ノ状態ニ在リ

是ヨリ先キ東軍支隊長ノ增加隊長ハ該方面ノ戰況ヲ顧慮シ取敢ヘス野砲兵大隊ニ護衛トシテ騎兵一小部隊ヲ附シ急行セシメテ午前七時石打ニ達ス此時砲兵大隊長ハ左ノ事ヲ知ル

優勢ナル敵歩兵ハ内ノ島ヨリ數縱隊トナリ上小泉方向ニ移動中ニシテ其第一線ノ兵力少クモ二大隊ヲ下ラス又敵砲兵モ該方面ニ急行中ナリ

(問) 増加砲兵大隊長ノ處置

(答) 騎兵ヲ以テ八重笠附近ニ於テ掩護セシメ砲

移動ス

大谷津附近ノ敵砲兵ハ我歩兵線ヲ猛射シ且我砲兵陣地ニハ敵ノ重砲彈飛來ス爲ニ我第一線ハ前進頗ル困難ナリ

(問) 西軍支隊長ノ決心

(答) 支隊長ハ館林方向ヨリ前進中ノ敵ヲ迎撃スル爲豫備歩兵三大隊及野砲四中队ヲ以テ上小泉

石神ノ線ニ展開セントス

支隊長ハ右決心ヲ部署スルト共ニ從來ノ第一線ニ對シテハ攻撃前進ヲ督勵ス

航空中队ヨリノ報ニ依レハ館林方向ヨリ前進中ノ敵砲兵ハ歩度ヲ早メ急進中ニシテ午前七時頃ニハ石打ニ達シ得ル筈

小泉方向ニ移動シタル歩兵第二聯隊ノ先頭午前七時小泉、石神ノ線ニ現出スルヤ新來ノ敵砲兵約一大隊ハ石打附近ニ陣地ヲ占領シ又八重笠附近ニハ敵騎兵ノ一部隊占領シアルヲ知ル

茲ニ於テ支隊長ハ速ニ歩兵部隊ヲ以テ上小泉、石神ノ線ニ展開シ砲兵四中队ヲ上小泉附近ニ配置シ

兵大隊ハ速ニ石打附近ニ陣地ヲ占領シ敵ヲ射撃ス

敵ノ増加隊ヲ攻撃セシム

(終リ)

(問) 東軍支隊長ノ處置

(答) 豫備隊タル歩兵大隊ヲ龍舞北側地區ニ展開シ小泉方向ニ移動スル敵ノ側面ヲ攻撃セントス

午前七時敵歩兵ハ小泉ニ現出ス
支隊長ハ現狀ヲ維持シ増加隊ノ來著ヲ待チテ敵ト決戦スルニ決ス (終リ)

講話

遭遇戦ニ於ケル野戦重砲兵ノ用法ニ就テ

(木村大佐)

一、緒言

本問題ハ編成及用兵上學問的ニ推攻スルトキハ隨分六ヶ敷事項ナルモ今日ハ單ニ他兵科將校ノ參考ニ供スル爲平易且ツ常識的ニ論述セントス

殊ニ既ニ連日兩軍ニ於テ概ネ適切ナル重砲兵用法ヲ實施セラレタル今日ニ於テハ只簡單ナル解説ニ止

メントス

戰時編制甲聯隊及平時編制奇數聯隊火砲十五珊榴彈砲(三八式若ハ四年式)竝乙聯隊偶數聯隊火砲十二珊榴彈砲ノ用法上必要ナル諸元ハ別表ノ如シ

近時四年式十五榴ハ射程及重量ノ關係上便利ナルモノトシテ稱用セラレツツアリ三八式十五榴ハ地質天候等ニヨリ使用スヘキ道路ニハ多少注意ヲ拂フヘキ點ナシトセス一言ニ云ハハ國軍ニ重砲兵ノ採用セラレタル日猶淺キヲ以テ其野戰的運用ハ恰モ尙攻城砲徒歩砲兵ノ如ク鈍重又ハ厄介視セララルモノアルヤニ推察セララルモ其性能及素質等ヲ了解セララルハ運動竝布陣共ニ便利ノモノタルコトニ注意セラレンコトヲ望ム左ニ用法上一、二所見ヲ述ヘントス

二、行軍部署ノ概要

一、敵ト遭遇ヲ豫期スル場合ニ於テ高級指揮官其隸屬下ニ野戰重砲兵部隊ヲ有スルトキハ機ヲ失セス戰闘ニ加入シ得セシムル爲之カ行軍區處ヲ適切ナラシメサルヘカラス前項述ヘタルカ如ク其接續砲車ノ重量ニ於テ多少野砲ト同一ナラサルモノアルト火砲モ亦野砲ヨリ大ナル遮蔽陣地ヲ通常トスル關係上野戰重砲兵ノ展開ニハ所要ノ準備ヲ得セシメサルヘカラス即チ觀測通信連絡等ノ準備ニ若干ノ時間ヲ要スルモノアルカ故ニ先ツ使用スヘキ尤モ良路ヲ重砲兵ニ與フル如ク願慮シ且ツ其觀測團ハ之ヲ前衛ノ後方ニ位置セシムルヲ可トス

觀測團トハ野戰重砲兵各中隊ニ有スル觀測車附屬人馬材料ノ集團ニシテ一中隊ニ三駢ノ繫駕スル觀測車一輛之ニ徒歩及乘馬ノ觀測手、通信手(徒歩四乘馬六)ヲ附屬シ其長徑一重砲旅團約五百米ニ達ス而シテ爾後愈々展開ヲ準備スルノ時機ニ至レハ該機關ノ乘馬者ハ所要ノ材料ヲ携行シ前衛縱隊ノ前方ニ挺進スルニ至ル

一、野戰重砲兵隊ノ行軍序列ヲ甚シク後方ナラシムルトキハ爾後ノ展開ニ多大ノ支障ヲ生スヘキコトニ注意セサルヘカラス爲之一般ニ野戰砲兵主力ノ後方ヲ行進セシムルヲ通常トス但シ此砲兵ヲ速ニ使用スルノ企圖アルトキハ其一部隊ヲ更ニ前方ニ位置セシムルコトナシトセス而シテ一般ニ工兵ノ一部隊ヲシテ野戰重砲兵ノ前進ヲ援助セシムル如ク考慮シアルヲ可トス

野戰重砲兵隊長ハ斥候ヲ前遣シ道路、敵情竝陣地ヲ偵察セシムルコト野砲兵ト同要領ナリ

陣中要務令行軍ノ部ニ『野戰重砲兵ノ觀測小隊ハ一團トナリ通常所屬隊ノ先頭ニ在リテ行進ス然レトモ情況ニ依リ前衛ト共ニ行進セシムルコトアリ』ト即チ之カ行軍序列ハ軍隊指揮官ノ定ムヘキ事項ニシテ前掲要領ノ如シ聯隊段列ハ野砲兵トノ行軍位置關係ヲ顧慮シ通常野砲兵聯隊段列ノ規定ニ準ス中隊段列ハ中隊行軍序列ニ從ヒ各一團トナリ高級古參者ノ指揮ヲ以テ大隊ノ直後ニ行進シ大隊戰鬪ノ爲展開スルニ方リテハ中隊長ノ指揮ニ復スルモノトス

一、軍ニ野戰重砲兵旅團ヲ屬セラレタル場合ニ於テ該軍遭遇戰ヲ豫期スルトキハ前述運動性ノ關係上

師團ノ後方ニ長徑大ナル砲兵旅團ヲ跟隨スルコトヲ避ケ旅團ニ一道ヲ與フルカ或ハ成ルヘク速ニ各師團ニ配屬シ以テ師團ノ後方ニ行進セシムル如クスルヲ可トスルコトアリ

要スルニ軍ノ將來重點ヲ成形スヘキ方面ノ師團長ニ重砲兵旅團ノ行軍ヲ區處セシメ師團ノ戰鬪部隊ニ續行セシム重砲ノ輜重ハ彈藥及糧食ヲ有シ其區分及前進法ハ師團輜重ノ要領ニ據ルモノトス

三、先制ノ利ヲ占ムル爲用法ニ關スル注意

先制ノ利ヲ遭遇戰ニ確得スル爲砲兵使用ニ關スル意見ヲ適時確定スルノ主旨ハ野砲兵用法ト何等差異ナシ前年某師團對抗演習ノ際野戰重砲兵使用ニ關スル當該師團長ノ用法中甚シク首肯シ難キモノアリキ即チ敵ト遭遇ヲ豫期シテ前進シツツアルニ際シ其運動性ヲ顧慮スルコトナク又ハ之ヲ統一的ニ本戰ニ使用スルノ舉ニ出テス所謂「思ヒ付キ」的用法ヲ斷行シ之カ爲多大ノ時間勞費ト疲勞要求トヲ以テ終リタルモノアリ又遭遇戰ノ情況ニ在リテ師團砲兵ノ最後尾ニ在ル重砲兵大隊ニ師團ノ渡河掩護ヲ命シタルコトアリ又展開路ヲ野戰重砲兵隊ニ與フルニ野砲兵旅團ノ連續通過後ノ泥濘路ヲ以テシ爲ニ適切ナル戰鬪參加ノ時機ト占領陣地ノ地域トヲ逸セシメタルコトアリ宜シク時間少ク且ツ其經過迅速ナル遭遇戰ニ於テハ力メテ本道ヲ離レテ重砲兵ノ分散の使用ヲ避ケ且ツ使用ニ關スル決心ヲ適確ナラシメ且ツ過早ナル布陣ヲ避クルト共ニ迅速ナル布陣ヲ企圖スルヲ要ス

砲兵隊長ハ受ケタル任務ト自己ノ觀察判斷ニ基キ斷乎タル決心ヲ以テ迅速ニ展開ヲ指揮シ且ツ機ヲ失

セサル如ク戦局ノ發展ヲ容易ナラシメ多クハ行軍縦隊ヨリ直ニ展開セシムルヲ常トス展開ノ爲行軍縦隊ヨリ分進スル重砲兵ハ自ラ所要ノ警戒ヲ爲シテ前進シ迅速果敢ニ陣地ヲ占領シ所要ノ戦闘ヲ開始ス此際其觀測團ノ準備ノ完成ハ此布陣並砲火開始ヲ迅速ナラシメ敵ニ對シ先制ノ利ヲ占ムル爲重要ナル作業ナリトス

重砲兵隊長カ重砲兵ヲ成ルヘク統一シテ戦闘ニ加入セシムルハ勿論望ム所ナルモ友軍ノ已ニ確得セシ利益ヲ確得増大スル爲又ハ不利ノ戦況ヨリ恢復セントスルカ如キ危急ナル情況ニ在リテハ到著スル重砲兵ヲシテ逐次的ニ戦闘ニ加入セシムルヲ要ス

四、戦闘布陣並射撃

一、重砲兵ノ陣地ヲ敵ヨリ幾何ノ距離ニ選定スヘキヤハ狀況ニ關スルモ成シ得ル限り敵ニ近接シテ之ヲ選定スルヲ要ス是レ射程ノ關係前述ノ如クナルト又敵陣地及彼我歩兵ノ景況ヲ確認シ協同動作ヲ確實ナラシムル利アリ而シテ其陣地ハ觀測ノ難易ヲ顧慮スルコト必要ナリ

一、砲兵戦ヲ統一シテ指揮セシムル爲要スレハ命令系統ヲ異ニスル砲兵部隊ニ對シテハ高級指揮官ハ砲兵指揮官ヲ命令シ或ハ期セスシテ命令系統ヲ異ニスル砲兵部隊一地ニ布陣セルトキハ協同的精神ニ基ク關係團隊長ノ協定ニ從ハシム

一、歩兵攻撃前進ニ移リ敵砲兵現出スルヤ重砲兵ハ敵ノ砲兵ニ對シ其全力ヲ盡シテ火力ノ優勢ヲ占メ

適時之ヲ制壓シ歩兵及野砲兵ノ行動ヲ容易ニシ假令火力ノ優勢ヲ占ムル能ハサルモ歩兵ノ前進又ハ砲兵ノ動作ヲ妨害スル敵砲兵ノ動作ヲ掣肘ス

歩兵戦闘已ニ酣ナレハ敵ノ損害ヲ受クルモ之ニ拘ラス主力ヲ以テ攻撃點ヲ猛射シ一部ヲ以テ攻撃歩兵ニ害ヲ及ホス敵砲兵ヲ制壓シ以テ歩兵ノ攻撃ヲ援助ス

歩兵將ニ敵陣地ニ突入セントスルヤ火炮ノ全部ヲ擧ケ自ラ任シテ緊要無二ナル適切ナル協同ノ事ニ從フモノトス

突撃射撃ハ特ニ擲射砲ノ特性上轉移ノ時機ニ妙味アルニ注意スルヲ要ス(落角)

戦勝ヲ豫期シ得ルニ至レハ砲兵各級指揮官ハ追撃射撃ニ便ナル地點ニ觀測所ヲ準備前遣シ適時追撃射撃ニ移ルノ準備ヲ爲スモノトス

操典ノ示ス所ニヨレハ『野戦重砲兵就中前掲ノ擲射砲ハ主トシテ野砲ノ擊破シ能ハサル目標即チ掩護物ノ直後若ハ其下方ニ在ル目標並堅固ナル術工物等ヲ射撃シ平射砲ヲ以テシテハ他ノ特有性ヲ發揮シ野砲ト協同シテ戦闘ノ進捗ヲ容易ナラシムルニアリ』ト即チ射撃目標ハ戰術上ノ價值ニ從ヒ選定シ戰闘各時期ニ於テ我歩兵ニ最モ危害ヲ與フルモノ及術工物等ニ對シ狀況ニ適スルカ如ク火力ヲ配當ス位置明瞭ナル敵砲兵ニ對スル效力ハ極メテ大ナルモ推定セル目標地域ニ對スル散布射撃ハ彈數並彈道束縛ノ關係上地形特別ナル場合ノ外之ヲ避ケシムルヲ可トス

展開セル歩兵ニ對シテハ通常其最前線ヲ射撃シ廣ク全線ヲ覆ハシムル如クシ密集部隊ニシテ其前進ニ影響ヲ及ホスモノニ對シテハ射撃スルヲ利アリトス

以上ノ經過中具體的ニ使用スヘキ彈種ノ選擇ヲ一言スレハ左ノ如シ

即チ暴露セル人馬ニ對シテハ曳火榴霰彈ヲ掩蓋下ニ在ラサル散兵壕内ノ敵ニハ落角大ナル曳火榴霰彈ヲ用ヒ防楯砲兵ヲ制壓スルニハ落角大ナル曳火榴霰彈ヲ使用シテ防楯後方ノ砲玉ニ損害ヲ與ヘ又之ヲ撲滅スル爲破甲榴彈ヲ用フ遭遇戰ニ於テ展開ヲ準備セル敵ノ部隊若ハ戰鬪推移中野戰的築城ヲ構成セルモノアルトキハ之ヲ破壊スル爲破甲榴彈ヲ用ヒ又森林内ノ軍隊ニ對シテハ著發榴霰彈並破甲榴彈ヲ使用シ住民地ニ對シテハ著發榴霰彈ヲ用ヒ情況ニヨリ木造家屋ノ燒夷ヲ試ミ曳火彈ヲ以テ村落ノ内部特ニ交通ヲ妨害スルコトアリ

前述戰鬪並展開ノ各期ヲ通シ重砲兵ハ危急ニ際シテ近傍ノ他兵種ヨリ救援ヲ受クルモノナルモ重砲兵砲手ノ自ラ有スル小銃ニヨリ不時ノ敵襲ニ對シ常ニ警戒シアルモノトス又戰鬪間所有彈藥少數ナル爲彈藥ノ節用ニ注意スルコト必要ナリ從テ多クノ場合ニ於テ最初ヨリ全砲數ヲ展開使用シ集團火ノ效力ヲ現ハシ敵ヲ壓倒スルヲ本旨トシ一時控置スルカ如キハ全ク狀況不明ナル當初特別ナル場合ニ限ルモノトス

追撃ヲ始ムルヤ追撃射撃ヲ行ヒ隘路、橋梁狀況ニヨリ敵ノ先頭部隊ヲ目標トシ敵ノ有效射界ヲ脱セン

トスルヤ速ニ有效距離ニ進出シ通常暴露陣地ヲ占領シ敵ノ殲滅ヲ企圖ス追撃ニ於ケル運動戰ハ適切ナル區處ニヨリ成效ヲ一貫ニ缺カサルノ概アルヲ要ス

退却ニ當リテハ其運動能力ヲ顧慮シ速ニ戰場ヲ去ラシムルコトヲ圖リ之ヲ區處スルヲ要ス固ヨリ步兵唯現在ノ隊形ヲ以テ正面ト直角方向ニ退却シ得ルカ如キ後方部隊ヲ存セサルカ又ハ敵ニ擊退セラレタルトキハ重砲兵ハ依然陣地ニ止マリテ犠牲的動作ニ出ルモノトス

結 言

以上ハ常識的解説トシテ一般の用法ヲ述ヘタルニ過キス各種ノ情況ニヨリ妙用ノ變化アルヘキハ論ヲ俟タス方今運動戰ノ研究歐洲強國ニ於テ盛ニ行ハレ殊ニ大戰後佛國兵學界ニ於テ注意スヘキモノアリ我國ノ事情ニ於テモ運動戰ノ切要ナル現下ノ狀況ニ於テハ本問題ノ研究ハ大ニ趣味アル事項ナリトス一方我國ノ現用兵器材料モ多々改善ノ餘地ナシトセス從テ此等ノ見地ヨリモ將來益々野戰重砲兵用法ノ研鑽ヲ推擴サレンコト特ニ切望シテ已マサル所ナリ終リニ臨ミ甚暑御清聽ヲ煩ハシタルコトヲ多謝スル所ナリ

	三八式野砲	1	2	H	三八式15H	四年式15H
最大射程	8350	5650	5650	5900	7800	7800
轍間距離	1.™ 40	1.™ 48	1.™ 48	1.™ 48	1.™ 55	1.™ 55
接續砲車重量	1734	2075	2075	2530	2059	2059
砲馬數	6	6	6	8	6	6
防楯有無	有	無	無	無	有	有
彈丸種類	榴榴	破榴	榴殼	同	同	地雷 破榴 榴殼 鑄鐵
裝藥種類	一重完成射	三種分離藥筒 高低	同	同	同	四種分離藥筒
彈道	平	擲射	同	同	同	同
最大射角度	+ 16.5	+ 43	+ 43	+ 43	+ 43	+ 95

彈藥準備量左ノ如シ

彈藥準備數量概見表

	戰砲隊	中.段	大段	聯隊 段列	縱列	計
野砲	136 (48)	100 (36)		50 (36)	206 (71)	492 (188 191)
野重砲	24 (48)	48 (36)		48 (36)	68 (71)	188 (191)

總 評 (對抗演習)

第一日

- 一、兩軍支隊長ノ選定セシ前進目標ハ近キニ過ク
- 二、兩軍騎兵隊カ玉井村下茶屋附近ニ於テ衝突ノ際騎兵隊ハ有利ノ戦闘ヲ交ヘタルモ其襲撃動作ハ尙敏活ヲ要ス
西軍騎兵隊長ノ搜索警戒ニ勉メタルハ可ナルモ當初ノ軍隊區分ニ於テ其一中隊ヲ分割シタルハ適當ナラス
- 三、玉井村附近ノ遭遇戰ニ於テ兩軍支隊長ノ展開部署ハ概ネ適當ナリ
- 四、西軍支隊長カ敵ノ優勢ニ依リ戰況ヲ悲觀シ直テニ退却ニ決心シタルハ適當ナラス
寡ヲ以テ衆ニ當ルハ我國軍ノ信條ナルニ顧ミ尙一層ノ努力ヲ要セン
- 五、退却ニ方リ目標ヲ本庄附近ニ選定セシハ近キニ過ク
- 六、後衛陣地ノ選定及其配備ハ概ネ適當ナルモ之ニ連繫シ更ニ一部隊ヲ以テ栗崎附近ヲ占領セシムヘキ必要アラン
- 七、後衛ノ編組ニ於テ兵力特ニ砲兵ハ寡少ナリ

- 八、東軍支隊長カ敵ノ退却ヲ知ルヤ各部隊ノ戰場追撃間速ニ追撃ノ部署ヲ爲ササリシハ遺憾ナリシモ爾後猛烈果敢ニ追撃ヲ實行セシハ適當ト認ム
- 九、東軍ノ敵ノ後衛陣地ニ對スル攻撃モ亦概ネ適當ナリ
- 十、作戰六月六日夜ニ於ケル兩軍支隊宿營及警戒法ハ共ニ至嚴ニシテ適當ナリ

第二日

- 一、西軍支隊長カ退却後其兵力ヲ藤岡附近ニ集結シタル後任務上鮎川左岸ノ線ヲ占領スルニ決心シタルハ適當ナリ
- 二、鮎川左岸ノ陣地占領法ハ概ネ同意ナルモ地形ノ利用法ハ尙研究ノ餘地アリ例ヘハ其配備ニ於テ右翼西平井方面ニ對スル警戒十分ナラス且ツ東平井北側高地ニ對スル著意十分ナラサリシ如キ即チ是レナリ
- 三、西軍支隊長カ砲兵ヲ有スル敵ノ有力ナル一部隊西平井ヨリ我カ右側ニ迂回シ來ルヲ知リ其豫備隊ヨリ逐次小部隊ヲ追部隊ニ派遣シタルハ適當ナラス
- 四、東軍支隊長ノ藤岡附近敵陣地ノ攻撃部署ハ概ネ適當ナルモ其展開時刻遅キニ失ス
- 五、次テ鮎川左岸ノ敵本陣地ヲ攻撃スルニ際シ東軍支隊長ノ部署特ニ左側支隊ヲシテ金井方向ヨリ迂

回シ敵ノ右側ヲ攻撃セシメタルハ適當ニシテ其實施亦可ナリ但シ東平井北側高地ニ對スル著意ヲ缺キシハ適當ナラス

- 六、東軍支隊長カ鮎川左岸ノ堅固ナル敵陣地ニ對シ損傷多大ナルニ拘ラス斷乎トシテ攻撃ヲ遂行セシメタルハ同意ヲ表ス
- 七、午後八時ヲ期シ敵陣地ヲ夜襲セシハ同意ナルモ左翼隊長ノ夜襲決行前殊更ニ歩兵砲ノ射撃ヲ實施シタルハ適當ナラス

第三日

- 一、東軍支隊長ノ鮎川ノ線ヨリ利根川左岸境町附近ニ撤退スルニ際シ其行動ヲ秘匿スル爲ノ隱密處置十分ナラサルモノアリ
- 又其退却部署ニ於テ單ニ山王堂附近ノ橋梁ヲ通スル一道路ノミニ據リシハ適當ナラス野砲ノ如キハ一部ノ歩兵ヲ附シテ向島橋梁ヲ經テ退却セシムルヲ要ス
- 二、西軍支隊ノ追撃ハ概ネ適當ナリ

第四日

一、西軍支隊長ノ策定セシ渡河計畫ニ於テ其準備間我企圖ヲ秘匿スル爲軍隊ヲ本庄以東ノ地區ニ開進セシメ且ツ豫メ砲兵陣地ヲ設備シ渡河開始ノ直前夜暗ヲ利用シ之ヲ渡河點附近ニ移動配置セシメタル考案ハ適當ナリ

然レトモ三友、久々宇間比較的狹小ノ地域ニ渡河點ヲ選定シタルハ一考ヲ要ス

主力ヲ以テ三友附近ヨリ渡河スルト共ニ一部ヲ以テ新野附近ヨリ陽動ヲ行ハハ尙有效ナリシナラン

第五日

一、敵前渡河ハ周到綿密ナル準備計畫ヲ要スルハ勿論其實行ニ際シテハ敵ノ抵抗ニ依リ屢、危險ノ状態ニ陥ルコトアルヲ覺悟セサルヘカラス

二、東軍支隊長カ軍參謀長ノ通報ニ依リ直ニ退却ノ意思ヲ以テ之カ準備ヲ爲シタルハ適當ナラス宜シク兩方面ニ於テ渡河セル敵ノ先頭部隊ヲ逆襲シ之ヲ河中ニ擊擠スルヲ要セン

第六日

一、東軍支隊長カ太田東方東長岡附近ノ陣地占領計畫ニ於テ近ク増加隊ノ進出ヲ豫期シ得ル場合ト雖龍舞ハ我左翼ノ弱點ナルヲ以テ之カ守備ニ關シ尙一層ノ顧慮ヲ拂フヲ可トセン

二、太田附近ノ戰鬥ニ於テ東軍砲兵隊長ノ射撃指揮ハ適切ナリ

三、西軍支隊長カ敵陣地攻撃中館林方向ヨリ前進スル敵ヲ迎撃スル爲豫備隊及砲兵ヲ以テ小泉方面ニ兵力ヲ轉用シタルハ適當ナリ

演習終了ノ辭

一六六

終ニ臨ミ尙一言シテ諸官ノ注意ヲ喚起セントス

一、今回ノ演習構成ノ目的ハ曩ニ演習開始ニ當リ既ニ訓示セシ如ク諸官ヲシテ大兵團内ニ於ケル一部隊ノ運用ヲ研究セシムルト共ニ支隊ノ戰術ヲ可成實戰的ニ研究セシメントスルニ在リシ蓋シ大兵團内ニ在リテハ隣接部隊ノ制限等ニ依リ不便利ノ場合多ク研究ノ價值多キニ拘ラス從來其研究比較的少ク又支隊ノ戰術力漸ク學理的ニ傾キ實戰的觀念ニ缺クルカ如キ弊害ナシトセサルカ故ナリ

二、本演習ノ結果將來尙一層諸官力研究ヲ重ネ向上進歩ヲ要スヘキモノ左ノ如シ

1. 飛行機ノ用法並飛行機ト他兵種トノ連繫
2. 歩砲兵ノ協同動作

3 歩兵砲等新兵器ノ用法

4. 夜襲ノ實施方法

三、作戰ノ成否ハ判斷ノ適否、計畫ノ巧拙ヨリモ指揮官ノ堅確ナル意志ヲ以テ斷乎トシテ實行スルニ在ルハ言ヲ俟タサル所ナリ是レ古今幾多戰例ノ證スル所ニシテ吾人ノ常ニ服膺スヘキ要件ナリ

四、後方機關ノ運用、給養補給ノ研究ハ戰術ノ研究ト共ニ頗ル重要ニシテ相離ルヘキモノニアラサルモ今回ノ演習ニ於テハ目的ト時間ノ關係上多ク研究スルノ機會ヲ得サリシハ遺憾トスル所ナリ諸官ハ將來此事ニ就テハ一層ノ留意ト研鑽ヲ望ム

之ヲ要スルニ本演習ハ本職ノ不十分ナル統裁ニ拘ラス諸官ノ熱心勉勵ニ依リ概ネ所期ノ目的ヲ達シ得タルハ本職ノ大ニ満足スル所ナリトス諸官ハ將來益々精勵努力以テ部下將校ニ適當ナル歸趨ヲ與ヘ國軍ニ貢獻セラレンコトヲ囑望ス

大正十年十一月十七日印刷
大正十年十一月二十日發行

非賣品

編輯兼
發行者

東京市麴町區飯田町二丁目五十二番地

香月 鐵 一

發行所

東京市麴町區飯田町二丁目五十二番地

偕行社

印刷者

東京市麴町區紀尾井町三番地

金澤 求也

印刷所

東京市麴町區紀尾井町三番地

元真社



終

